激変 県都のかたち

第2部 まちが動く ①

活況

地価上昇、人口も増加

岡山市街地のど真ん中。JR岡山駅東口の目の前に、青色LED（発光ダイオード）で外壁を彩る9階建て商業ビルが立つ。4月中旬に改修オープンしたばかりだが、美容室やクリニックが開業し、入居率は100%だ。

このビルは古くなり空室が目立っていたところ、地元不動産会社が数億円で取得、よみがえらせた。社長の市川周治さん(46)は「昨年あたりから駅周辺でテナント物件を探す人が急増している。ビルの資産価値は上がるはず」と踏む。

そこから歩いて2分。桃太郎大通りに面した一画に昨年11月、8階建てビルが完成した。岡山初出店を含む飲食店やドラッグストアでこちらも全フロアが埋まった。「駅前の需要の高さは想像以上だった」。開発会社の担当者は驚きを隠さない。

イオンが刺激

県都のまちなかは、景気回復に加え、岡山駅南に今秋開業する中四国最大級の商業施設・イオンモール岡山が刺激を与える。不動産鑑定士の有田修一さん(58)は「イオンの巨大な集客力により、県内の人の流れは岡山市街地に集中する。それを期待した投資意欲が高まっている」とみる。

オフィスを構える企業も増え、市中心部のオフィスビル空室率（昨年12月時点）は9・5%と5年ぶりに1桁の低水準。イオンの南側に移転した証券会社と、北側にサービスセンターを開設した学生服メーカーはともに、人通りが増えPR効果が高まり、商売に有利になることを理由に挙げる。

土地取引の目安となる公示地価（1月1日時点）も下落基調から一転。岡山市の商業地は世界的な不況を招いたリーマン・ショック以降の低迷を脱し、6年ぶりに上昇地点が現れ、中心部の8地点で前年より上がった。

地価の上昇などで活況を呈する岡山市街地。右は建設工事が進むイオンモール岡山

変化に備え

活気づくのはマンション市場も同様だ。販売会社の調査によると、岡山市内で昨年発売された戸数の合計は、4月の消費税増税前の駆け込み需要も後押しして過去5年で最多の915戸（19棟）。うち市中心部が約半数を占め、中古物件の取引も目立つ。

「底流には、都市機能を集約するまちのコンパクトシティー化があり、人気は根強い」と社長の菊井慎也さん(44)。「増税後も購入意欲は衰えていない」と実感を話す。

人口減少、超高齢化の激動期を迎え、コンパクトシティーは都市再生の処方箋として注目され、岡山市も目標に掲げている。都市の拡大成長を前提とした従来のまちづくりで長く減少傾向だった岡山駅周辺の人口は7年連続の右肩上がりで11・8%増えた。

まちなかは活況を呈している。だが、駅周辺に偏り、全域に及んでいない。集約型の都市を目指す中で、年間2千万人の集客を想定するイオンの開業により、市街地を訪れる人はさらに跳ね上がる。その大波に乗って活力をどう広げていくかが飛躍への鍵を握る。表町商店街で婦人服店を営む男性は「変化に備えなければ生き残れない」と苦心する。

まちなかは今、激変に伴う活気と警戒感が渦巻いている。

◇

岡山市の中心市街地の商業や人の流れを大きく変えるイオンモール岡山のオープンが半年後に迫った。第2部はまちの変化、新たな人の動きをルポする。

がん対策条例知って

3月施行 県が啓発パンフ

県が作った「県がん対策推進条例」の啓発パンフレット

県は3月に施行した「がん対策推進条例」を県民に広く知ってもらうための啓発パンフレット（A4判4㌻）を作製した。がんに関する正しい知識の普及や、治療しながら働ける環境づくりを事業者に求めるなど幅広い対策を掲げており、市町村や保健所、病院などに2万6千部配布している。

条例は2月定例県議会で議員発議により成立。「がんになっても自分らしく生き抜くことのできる岡山県」を掲げ、医療水準の向上や緩和ケア、がんへの理解を深めるための教育を推進するほか、患者が離職せず療養したり、家族が介護できる環境づくりを事業者の役割とした。

パンフレットは条文全文のほか、がんの年齢別罹患率、相談窓口、がん種別ごとの検診内容なども掲載している。

県医療推進課は「がん対策は県民の広い理解と協力が欠かせない。条例の周知を図るとともに今後、具体的な施策も考えていきたい」としている。

（阿部光希）

岡山で17日に 記念フォーラム

県がん対策推進条例の制定を記念し、県内の患者会や交流サロンを運営する9団体が17日午後1時半から岡山市北区石関町の県総合福祉会館で「がん医療フォーラムinおかやま2014 がんと共に生きる」を初めて開く。参加無料。

国立がん研究センターがん対策情報センターの高橋都・がんサバイバーシップ支援研究部長が「がん患者の抱える社会的な問題について」と題して基調講演するほか、患者団体の代表や在宅ケアに携わる看護師らが取り組みを報告する。

問い合わせは地域がんサロンたんぽぽカフェの崎本さん（090−5263−1275）。

岡山大廃棄物研究センターなど

再利用容器普及へ

生協でほうじ茶発売

瓶返却 10円返金

何度も使えるリユース（再利用）容器の普及を図ろうと、岡山大廃棄物マネジメント研究センターなどは、瓶入り県産ほうじ茶「晴・Re・茶」（220㍉㍑、118円）の販売を12日から、津島キャンパス（岡山市北区津島中）にある大学生協ピオーネユニオンで始めた。瓶を生協に返却すれば、預かり金10円が返金される。

岡山大生協で販売が始まったリユース瓶入りの県産ほうじ茶「晴・Re・茶」

真庭市勝山地区で栽培した茶葉を使用。「晴れの国で育った茶葉を使い、Reuse（再利用）瓶に詰めたほうじ茶」にちなんで学生が商品名を考えた。

容器は原料調達から廃棄・リサイクルまでに排出される二酸化炭素（CO_2）の量を表示する仕組み「カーボンフットプリント（CFP）」の認証を産業環境管理協会（東京）から受けた。瓶を5回繰り返し使うと、1回で捨てた場合に比べてCO_2を67%減らせるという。

6千本製造。当面は同生協のみで取り扱う。同センターの松井康弘准教授（廃棄物工学）は「リユースの取り組みは、効率や採算面からあまり進んでいない。商品を購入し、考えるきっかけにしてほしい」と話している。

（伊丹友香）

4700万円着服の元郵便局長

懲役7年を求刑

地裁公判

岡山芳賀佐山郵便局（岡山市北区芳賀）をめぐる着服事件で、業務上横領などの罪に問われた元局長桐畑明彦被告(62)＝同青江＝の論告求刑公判が12日、岡山地裁（寺田さや子裁判官）であり、検察側は懲役7年を求刑した。

論告で検察側は「先物取引で生じた損失などを穴埋めするため、信頼を逆手に取って複数の顧客の貯金を着服した」と指摘。「使い込んだ顧客の貯金の補填に充てるなど、自転車操業的に抵抗なく犯行を重ねており、極めて悪質。動機も身勝手かつ自己中心的で酌量の余地はない」と述べた。

弁護側は「顧客に借り入れの一部を返済した上、懲戒解雇されるなど社会的制裁を受けている」とし情状酌量を求めた。

起訴状では、2008年4月と10年11月、顧客の倉敷市、女性(58)から簡易保険料として集金した約399万円を横領したのをはじめ、同郵便局に隣接する土地の購入費と偽って現金を詐取するなどの手口で、計約4700万円を着服したとされる。県警が確認した着服総額は1996年からの15年間で約3億4千万円。

ニュースファイル

津山で民家全焼

12日午前0時25分ごろ、津山市西吉田、土木作業員神崎佳司さん(59)方から出火、木造2階の母屋延べ約150平方㍍を全焼した。

津山署によると、神崎さんは1人暮らしで仕事で外出中。敷地内の離れに住む親戚の男性(41)が火事に気付いて119番した。同署が原因などを調べている。

燃えて煙を上げる民家＝12日午前0時56分、津山市西吉田

ひき逃げ容疑で男逮捕

岡山西署は12日、自動車運転過失傷害と道交法違反（ひき逃げ）の疑いで、久米南町塩之内、自称派遣社員木村成二容疑者(25)を逮捕した。

逮捕容疑は同日午前0時45分ごろ、岡山市北区上中野の県道交差点で、自分の乗用車で直進していた際、右から来た同市、会社員男性(24)の乗用車と衝突。首などに1週間のけがを負わせたが、現場に車を放置して逃げた疑い。「相手のけがに気付かなかった」と容疑の一部を否認している。

傷害容疑でも

岡山西署は11日夜、傷害の疑いで、岡山市北区三門西町、会社員下野幸広容疑

岡山 広範囲

工場のガス 付臭剤漏れ 人体

12日午前9時ごろ、岡山市の広範囲で「ガス漏れのような臭いがする」との通報が消防や警察に相次いだ。同市消防局によると、同市東区犬島、岡山化学工業の工場で、都市ガスなどに使う付臭剤の原料約48㍑が漏れ、臭いが南東の風に乗って広がったとみられる。人体に影響はなく、気分が悪くなって搬送された人もいなかった。

市消防局への通報は、同日午前9時から約2時間で計92件。同市北、中区が中心だったが、工場から北西40㌔以上離れた吉備中央町からも寄せられた。

岡山県内の交通事故（県警調べ）

本日 準優勝戦 第1R「朝とくガァ～コ戦」実施中!
マクール杯
場外発売 平和島
GIトーキョー・ベイ・カップ
本日初日
JR児島駅から無料バスで約5分!